

理事会・評議員会レポート

平成 27 年 5 月～7 月の理事会・評議員会の主な審議事項は以下のとおりである。

○基準諮問会議委員の選任（5 月 14 日理事会）

（株）大和総研の引頭麻実氏、あらた監査法人（現 PwC あらた監査法人）の加藤達也氏、（株）日立製作所の逆瀬重郎氏を新たに基準諮問会議委員に選任した。

○第 15 期（平成 26 年度）事業報告の承認（5 月 14 日理事会）

第 15 期（平成 26 年度）の事業報告を承認した。事業報告の主な概要は以下のとおりである。

【会計基準等の開発】

- 本年度は、計 6 の会計基準等を公表した。また、基準諮問会議からの提言を踏まえ、「税効果会計等に関する指針の見直し」及び「一括取得型による自社株式取得取引（ASR 取引）に関する会計処理」に関する会計基準等を開発中である。

【IFRS のエンドースメント手続】

- IFRS のエンドースメントに関する作業部会及び企業会計基準委員会（ASBJ）における審議を踏まえ、平成 26 年 7 月に公開草案「修正国際基準（国際会計基準と企業会計基準委員会による修正会計基準によって構成される会計基準）（案）」を公表した。

【ASAF 会議への参加】

- 計 4 回開催された会計基準アドバイザー・フォーラム（ASAF）会議に参加し、以下の審議資料の提出等を行った。
 - ✓国際会計基準審議会（IASB）及び米国財務会計基準審議会（FASB）が共同で開発を行っているリース会計に関する意見書の提出
 - ✓ディスカッション・ペーパー「のれんはなお償却しなくてよいカーのれんの会計処理及び開示」の説明
 - ✓「持分法会計に関するアンケート調査に対するフィードバック」の説明
 - ✓「わが国における排出量関連スキーム及び関連する会計上のガイダンス」の説明
 - ✓審議資料「測定基礎の識別、記述及び分類」及び「会計基準の設定における『企業の事業活動の性質』の役割」の提出（概念フレームワークの見直しの議論に関連）
 - ✓ディスカッション・ペーパー「のれんはなお償却しなくてよいカーのれんの会計処理及び開示」のフィードバック文書の説明
 - ✓審議資料「保険契約：未稼得利益の表示に関する OCI の使用」の提出

【IFRS 対応方針協議会の活動】

- 平成 26 年 9 月、12 月及び平成 27 年 3 月に同協議会を開催し、ASAF 会議への対応についての

意見交換及びIFRSの任意適用の積上げに関する各団体における取組みの報告等を行った。

【有報・四半期セミナーの開催】

- 有価証券報告書等の作成要領をもとに、平成26年4月に有価証券報告書セミナー、平成26年6月に四半期報告書セミナーを開催した。両セミナーは、全国9か所で延べ11回（東京は3回）にわたり開催し、有価証券報告書セミナーは約3,000人、四半期報告書セミナーは約2,300人の受講者が参加した。

【会員の状況】

- 当期の法人会員は25社増加し、口数では18口増加、個人会員は24名の減少となった。

○第15期（平成26年度）決算の承認（5月14日理事会、6月4日評議員会）

平成26年度の決算を承認した。経常収益は、受取会費が堅調に推移したことに加え、出版物（国際財務報告基準特別追補版）の収入があったこと等から、前年度対比3,410千円増加の1,460,348千円となった。一方、経常費用は、円安に伴うIFRS財団へのUS\$建ての拠出金の増加等により、全体で前年度対比10,083千円増加の1,393,511千円となった。

以上の結果、当期経常増減額は、66,836千円となっている。

(千円)

	平成26年度	平成25年度	増減
経常収益	1,460,348	1,456,938	3,410
うち受取会費	1,384,875	1,385,187	△312
経常費用	1,393,511	1,383,428	10,083
当期経常増減額	66,836	73,509	△6,672

○理事及び監事の選任（6月4日評議員会）

6月4日評議員会終結の時をもって、理事及び監事の任期が満了することに伴い、同評議員会後の理事及び監事の選任を行った（理事、監事名簿は150頁参照）。理事については、19名が再任され、新たな理事として三菱重工工業(株)の小口正範氏が選任された。監事については、日本公認会計士協会の梶川融氏が再任された。

○理事長及び代表理事の選任（6月8日理事会）

釜和明氏が理事長に、都正二氏が代表理事常務に再任された。

○評議員の選任（6月25日評議員会）

6月16日に斉藤惇氏が評議員を辞任したことに伴い、後任として、(株)日本取引所グループの清田瞭氏を評議員に選任した。